

# さいたま 来ぶらり通信

Contents

祝1周年! さいたま市岩槻人形博物館……………1,2 本棚ぶらり テーマ「人形」……………3  
 第21回現代短歌新人賞/図書館の本は大切にお使いください……………4

わがまち

はっけん

Sai発



祝1周年!



さいたま市岩槻人形博物館

2021（令和3）年2月22日で開館から1周年を迎えたさいたま市岩槻人形博物館。さいたま市の新たな文化施設として、全国的にもその名が知られるようになりました。そこで今回は、館の見どころやコレクションの一部をご紹介します。



## 「人形のまち」岩槻に誕生

「人形のまち」として知られる岩槻。埼玉県と人形の歴史は江戸時代にまでさかのぼると言われます。節句人形の産地として全国区になったのは、昭和の高度経済成長期のこと。当時300軒近い工房と問屋が軒を連ねていたそうです。さいたま市岩槻人形博物館（以下、人形博物館）は、人形にゆかりのあるこの地に、2020（令和2）年2月22日にオープンしました。人形を専門に扱った公立の博物館は日本初のことです。



人形博物館の外観。本を開いて伏せた山のような形状の切妻屋根が特徴的。歴史的風土との調和を考慮して設計されている。



## にしぎわてきほ 西澤笛畝のコレクションがメイン

人形博物館内の随所で、西澤笛畝（1889 - 1965）の名を目にします。日本画家でありながら、人形玩具研究者としても高名で、没後に遺族が故人のコレクションを引き継いで開館した笛畝人形記念美術館（埼玉県越生町）の収蔵品は、じつに約7,000点を数えたそうです。笛畝の業績については『さいたま市岩槻人形博物館コレクション名品選』のなかで次のように語られています。「人々の暮らしのなかに根付き、時に懐古趣味の

対象とされてきた人形や玩具に光を当て、学問や芸術のスタンダードの一つとして普及させようと尽力した」

笛畝のコレクションは、先の笛畝人形記念美術館の閉館に際して岩槻人形共同組合に譲渡されました。そこから資料的価値の高い3,500点あまりが人形博物館に引き継がれ、現在、人形博物館のメインコレクションとして、訪れる人を楽しませています。



## 伝統的な人形作りの工程がわかる

館内の展示室では人形ができるまでの伝統的な技法を、専用の道具などを交えて紹介しています。なかでも目を引くのは雛人形の「頭作り」の製作工程模型。黄土色をした桐塑生地とうその頭から始まり、段階的に美しく仕上がっていく様子わかります。「人形の印象が決まる」とも言われる重要な部分が頭なので、一つ一つの工程にかける職人の想いが伝わってくるようです。

頭の原料は、現在は石膏が主流ですが、かつては桐粉（桐のおが屑）が使われていたというのも驚きです。



伝統的な頭作りの模型写真。桐粉と専用ののりを混ぜて粘土状にし、型で抜いて乾燥させる。これを桐塑頭と呼ぶ（写真左）。髪を植え付けて完成（写真右）するまでには、多くの工程を経なければならない。

# 一度は観てみたい！ 人形博物館の傑作3選

学芸員の岩田明日香さんのご協力のもと、人形博物館の代表的なコレクション3点を紹介します。

※コレクションは作品保護のため、定期的に展示替えを行います。常時展示されているわけではありません。



いぬばこ  
【犬笥】

多産の犬は安産のシンボルだったことから、犬笥は婚礼道具として用いられてきました。犬のフォルムに子どもの顔が描かれた不思議な姿で、通常一對を成し、内部に物を収納できるようになっています。きらびやかな装飾のなかには、縁起物の鶴亀や松竹梅が描かれていて、よく見ると、小さな鶴の雛も丁寧に描かれています。



江戸時代 左：29.5cm 右：29.0cm

## 岩田さんに聞く、鑑賞のポイント

『人形鑑賞』と言うと、難しく思われるかもしれませんが、家族や友人と一緒に、雛祭りや端午の節句を祝うときのような気分で、気軽に来館していただければうれしいです。人形の表情や仕草、衣装の文様や刺繍などに注目していただくと、鑑賞の楽しみが広がりますよ。来館者の中には、お気に入りの人形ができて、展示中に何度も通っていただく方もいらっしゃるほどです。また、雛段を常設しているので『ここに来ればいつでも雛祭りの雰囲気味わえる』と喜んでいただけることも。身近な“人形”だからこそ、愛着を感じていただけるのかもしれない」

## 参考資料

『さいたま市岩槻人形博物館コレクション名品選』  
さいたま市岩槻人形博物館／編集・発行 2020年  
『さいたま市岩槻人形博物館ガイドブック』  
さいたま市岩槻人形博物館／編集・発行 2020年  
写真提供 さいたま市岩槻人形博物館



おしよにんぎょう はだかわらわ  
【御所人形 裸童】

御所人形は公家や武家などの贈答品として用いられていました。その特徴は、白く滑らかな肌で、おおよそ3頭身。弾力が伝わってくるかのような、ふくよかな姿形



江戸時代 36.7cm

をしています。本作は御所人形のなかでは比較的手足が長く、古い様式とされています。腹掛に施された鳥居などの刺繍は、謡曲「三輪」をモチーフにしていると思われ、厳かな雰囲気漂います。



じろうざえもんがしらたちびな  
【次郎左衛門頭立雛】

立雛は雛人形の最古の様式とされています。高さ60cmを超えるものは珍しく、胴体は紙製。丸顔に引き目、鉤鼻が特徴で、本作の愛らしさにもつながっています。衣装には鶴亀などの吉祥文様が描かれており、めでたさを醸し出しています。



江戸時代 男雛：61.5cm 女雛：45.2cm

## さいたま市岩槻人形博物館

<https://ningyo-muse.jp/>

〒339-0057 さいたま市岩槻区本町6丁目1-1

TEL 048-749-0222 FAX 048-749-0225

開館時間 午前9時～午後5時

(閉館時刻の30分前までに入館してください)

休館日 月曜日(休日の場合は開館)、年末年始

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展示を一部休止しています。

※観覧料や臨時休館日などの情報はホームページや電話でご確認ください。

# 本棚 ぶらり

## テーマ 人形

### 『たまさか人形堂物語』

つはらやすみ  
津原泰水／著

文藝春秋 2009年



会社を突然リストラされ、家に引きこもっていた主人公の濡。ある日、祖父の入院を機に、祖母の形見である人形店「玉阪人形堂」を引き継ぐことになる。

ちょっとした人形の小売りと人形の修復で店はそこそこ忙しい。傷ついた人形とともに、人形にまつわる謎が人形店のもとに運び込まれてくる。その謎を、従業員である人形マニアの富永くん、高い技量を持つが素性の知れない職人の師村さんとともに解き明かしていく、連作短編集となっている。3人の関係に心が温かくなり、ついでに人形にも少しだけ詳しくなれる、そんな1冊だ。

### 『人形の誘惑』

いのうえしょういち  
井上章一／著

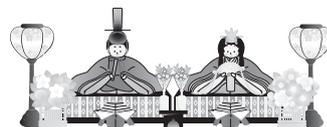
三省堂 1998年



薬屋の店先にはカエルの人形が置いてあり、ウサギもいれば、ゾウもいる。まるで小さな動物園のようだ。日本は不思議な国だと、ある外国人が驚いたそうである。

また、戦前の日本ではマネキン人形が、まだ高価でめずらしく、各地へのセールスのときには、寝台車の寝台には人ではなくマネキンを寝かせ、配送の際には、人力車に乗せ、後押しをするのは販売員であったという。

そんな店頭の人形からはじまり、ビリケン人形、福助人形、二宮金次郎像に至るまで、幅広くその歴史と文化を解説する。人形がいかに関わっているかを知ることができる数々のエピソードは、興味深い。



### 『子供を祝う端午の節句と雑祭』

これさわひろあき  
是澤博昭／著  
淡交社 2015年



子供の健やかな成長を願う大人の想いは、いつの時代も変わることはありません。子供の幸せを祈り、病気や災いをさける心が、日本の貴重な伝統文化である節句行事をつくりあげてきました。

日本古来の年中行事というイメージがある端午の節句や上巳の節句ですが、人々の生活に定着するのは、300年から250年前の江戸時代のこと。節句行事を彩る人形をはじめとする鯉幟や羽子板、破魔矢などの節句飾りが、当時の人々の生活の中でどのような意味や目的を持ち、どのように広がり、どのように発展していったのでしょうか。

本書は、令和の現在でも行われている節句について、新たな一面を見つける一冊になることでしょう。

### 『りかさん』

なしきかほ  
梨木香歩／著  
新潮社 2003年



ひな祭りのお祝いに、リカちゃん人形が欲しいと、小学生のようこは祖母にお願いをする。しかし届いたのは「りか」という、名前だけは同じ、おかっぱ頭の市松人形。このりかさんは、自分を愛してくれる持ち主と心を通わせ、会話を交わすことができる不思議な人形だった。ようこはこれをきっかけに、たくさんの人形たちの、それぞれの持つ過去や思いに出会っていく。例えば、アメリカから送られた親善人形が、戦時中は敵国のスパイだとして、竹槍で突かれ火に焼かれてしまう。無残な姿のままで保存されていたその人形をりかさんとようこは、やさしく抱きかかえて癒していく。お互いを大切に思う気持ちを、人形と持ち主側の両方の立場から新鮮な視点で描く。

第21回

# 現代短歌新人賞

さいたま市が主催し、市民の文学活動の充実と日本現代短歌会の振興を目的に、歌壇に新風をもたらす歌人を表彰してきた「現代短歌新人賞」。その第21回受賞作がカン・ハンナさんの『まだまだです』(角川文化振興財団2019年刊)に決まりました。

受賞作品や選考過程については、雑誌「ミセス」2021年3月号(文化出版局)に記事が掲載されます。さいたま市図書館でも所蔵していますので、ぜひご覧ください。

「来日して八年の著者が、日本における生活に順応し、定型詩の短歌に熟達された、珍しい成果。異文化をマスターしていく苦悩と熱情が、じつにみずみずしく表現され、この歌集は、歌壇を超えて愛読されるにちがいない。」

(選考委員講評 さいたま市ホームページより)



『まだまだです』

カン・ハンナ/著  
角川文化振興財団  
2019年



## 図書館の本は 大切にお使い ください。

さいたま市図書館では、次のような本の汚破損が多く見受けられるようになっています。



- ボールペンや鉛筆による書き込みがある
- 本や雑誌の切り抜きがある
- 水濡れの跡がある



図書館では、このように本の破損や汚れがひどい場合、原則として現物弁償をしていただくことになっております。また、雑誌については購入の停止を検討させていただく場合もあります。さいたま市図書館が所蔵しているすべての資料は、市民の皆様の大切な財産です。次に借りる方のことを考え、大切に扱っていただきますようお願いいたします。

編集：さいたま来ぶらり通信編集委員会 発行：さいたま市図書館

<https://www.lib.city.saitama.jp/> 携帯電話用 <https://www.lib.city.saitama.jp/m/> (下の二次元コードを読み込んでください)

北浦和図書館 832-2321	馬宮図書館 625-8831	与野図書館 853-7816	桜図書館 858-9090
東浦和図書館 875-9977	三橋分館 625-4319	与野南図書館 855-3735	大久保東分館 853-7100
美園図書館 764-9610	春野図書館 687-8301	西分館 854-8636	北図書館 669-6111
大宮図書館 643-3701	大宮東図書館 688-1434	岩槻図書館 757-2523	宮原図書館 662-5401
桜木図書館 649-5871	七里図書館 682-3248	岩槻駅東口図書館 758-3200	武蔵浦和図書館 844-7210
大宮西部図書館 664-4946	片柳図書館 682-1222	岩槻東部図書館 756-6665	南浦和図書館 862-8568

事務局：中央図書館 浦和区東高砂町11-1 TEL 048-871-2100 FAX 048-884-5500

★★編集後記★★ 人形博物館に行ってきました。隣接の「にぎわい交流館 いわつき」は、お土産も買えて食事のできるの、おすすめです!

次回発行予定：8月15日(年3回発行)



もっと身近に、  
もっとしあわせに



さいたま来ぶらり通信は2,000部印刷し、一部あたりの印刷経費は20円です。